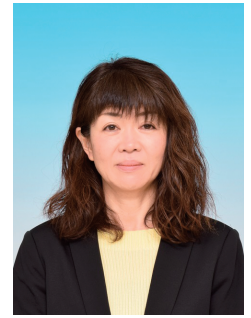


研究タイトル：

日本語話し言葉の研究



氏名：	市村 葉子 / ICHIMURA Yoko	E-mail：	ichimura@fukui.kosen-ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(学術)
所属学会・協会：	計量国語学会、日本語用論学会、日本語／日本語教育研究会		

キーワード：話しことば、イントネーション、コーパス、日本語教育、やさしい日本語

 技術相談
 提供可能技術：

- ・ 日本語ボランティア養成講座
- ・ 外国人のためのやさしい日本語への書き換え

研究内容：

【話し言葉の記述】

「ちょっとわからないんだよね」という言い方は、使われる文脈やイントネーションによって、「確認」にも「意思表示」にもなります。こうした文末表現を会話データから取り出し、それらの表現と発話意図を記述することを目的に研究しています。言葉は時代とともに変化しています。年代の異なるコーパス(言語資源)を用いて、年代に応じた言語の有様を分析するとともに、なぜそのような変化が起きたのかも考察しています。

【外国人に対する日本語指導】

外国人にわかりやすく、生活に役立つ日本語を教える研究をしています。外国人労働者受け入れ拡大に伴い、彼らは当然ですが、共存する地域住民のためにも、日本語教育支援は喫緊の課題です。これまで越前市国際交流協会の日本語アドバイザーとして、定住外国人の日本語支援をされているサポーターの方に日本語教育の方法を指導してきました。

今後も地域と協力し、地域住民と年少者を含めた定住外国人にとって住みやすいまちづくりに貢献できるよう取り組んでいきます。

【外国人のためのやさしい日本語への書き換え】

「易しい」ことばで「優しく」伝えるために必要な日本語とは何か、やさしい日本語で何ができるかについて興味があります。当初は災害時において定住外国人の方での情報提供を目的として、やさしい日本語は考案、使用されるようになりましたが、現在では地域のお便りや話し言葉でもニーズが高まっています。

外国人の国籍が多様化している今、ますます「やさしい日本」へのニーズは高まると予想されます。これまで主に越前市や鯖江市と協力し、地域のお知らせ、生活のためのガイドブックをやさしい日本語に書き換える活動に携わってきました。今後は定住外国人のための防災マップやガイドラインの作成を行いたいと思っています。